友愛

第 145 号（2011）

〒733-0032 広島市西区東観音 8-10
ワールド・フレンドシップ・センター
理事長：森下弘　館長：ラリー＆ジョアン・シムズ
ＴＥＬ　（082）503-3191
ＦＡＸ　（082）503-3179
E-Mail:worldfriendshipcenter@gmail.com
URL: http://www.wfchiroshima.net/

ワールド・フレンドシップ・センター　２０１１年度「奉仕仲間賞」を受賞

ジョアン・シムズ　（WFC 館長）

（左から右：前列：ダン・マクファーデン、木戸マサコ、後列：リン・ルウェリン、WFC 前館長達）

毎年ブレズレン・ボランティア・サービス（BVS）は奉仕行為を通して神の愛を BVS と分かち合うひときわ優れた係わり合いを立証した個人、事業又は組織を表彰しています。BVS スタッフはこの栄誉に対して、全会一致でワールド・フレンドシップ・センターを選びました。

栄誉賞は２０１１年７月４日、ミシガン州グランド・ラピッド市でのブレズレン年次総会で贈呈されました。ワールド・フレンドシップ・センターの理事の一人である木戸マサコさんは夫リン・ルウェリンさんと共に米国を訪問中で、WFC を代表してその賞を喜んで受け取りました。マサコさんの受賞スピーチを下記に掲載いたします。

Partners in Service Award　（奉仕仲間賞）

木戸マサコ （WFC 理事）

私の名前は木戸マサコと申します。日本の広島から参りました。
私は45年を超えて World Friendship Center（ワールド・フレンドシップ・センター）の会員であることを誇りに思っています。本日は名誉なことにワールド・フレンドシップ・センターを代表して Brethren Volunteer Service（ブレズレン・ボランティア・サービス）から「パートナーズ・イ.ン・サービス賞」を受け取ることになりました。

世界平和のために私たち二つの組織間の協力関係は、強くて価値あるものでした。BVS は親切にも25年以上にわたりWFCのために館長たちを派遣してくださいました。まず最初にBVSの継続的なご支援に私たちは心より感謝申し上げます。BVS のご指導、叡智、そしてご援助なしに WFC は今日まで生き延びることはできなかったでしょう。
今年6月12日は故バーバラ・レイノルズの96歳の誕生日でした。彼女は WFC の創立者であり、また特別広島名誉市民でもあります。その期にあたり、センターは彼女を讃えて美しい記念碑の除幕式を行いました。除幕式には、前市長並びに現市長も加えて沢山の著名人の来場がありました。
記念碑の建立には4年以上もかかりました。そのことについて皆さんに簡単に述べさせて頂きたいと思います。記念碑は平和記念公園の南東側に建てられました。そのデザインはとても垢抜けしていて、人の心に訴えるものです。記念碑の全面は白いセラミック板で、バーバラの写真と WFC 理事長　森下弘氏による素晴らしい墨書の彫刻があります。白いセラミック板は黒い石に取り付けてあります。アメリカ委員会と日本の理事たちが記念碑に彫り込む言葉の案を出し合いました。誰もが碑文はバーバラの平和活動とより良い未来を求めた彼女の願いを代表すべきだと思いました。それらの言葉は初めに日本語で次に英語で書かれています。

私もまた被爆者です。 私の心はいつも被爆者，ヒロシマとともにあります。
被爆者—彼らは私の平和への努力のあらゆる源です。私の心はいつもヒロシマとともにあります
（皆さんの知識として、[被爆者]とは原爆被爆で生き残った人々のことです。）

私はまた皆さんにバーバラの娘ジェシカ・レンショウとそのご主人、バーバラの甥アンソニー・レイノルズさんたちがわざわざアメリカから記念碑除幕式に出席のため、おいでになられたことをお知らせいたします。ジェシカさんはこの行事のために15分間のスピーチを日本語でされました。
私はこの会場においでの皆さんが広島へおいでくださり、バーバラ・レイノルズさんの記念碑を訪れてくださる機会を持って頂けたらと願います。

終わりに、重ねて BVS からこの素晴らしい賞をいただいたことを感謝申し上げます。二週間後、この賞を日本に持ち帰り、その名誉を WFC の他の会員の方々並びに広島の人々全員に分かち合います。心よりお礼申し上げます。
ありがとうございました。

2011 年　8月6日　広島平和記念式典

ラリー・シムズ （WFC 館長）

８月６日は、広島市に原爆が投下されて街が破壊され、そこに住む多くの人々が命をおとしたことを、思い出す日です。また、今でも毎年亡くなられている被爆者のことを思い出します。式典を見て、人々は核兵器の無い平和な世界を造る努力をし続けなければいけないという思いを新たにします。

式典の日に平和公園に近づくと、カブスカウトが挨拶して、式典の終わりに慰霊碑に献花する花を渡してくれます。 式典そのものは短くて、短いスピーチがいくつかと、合唱があって、ハトが放たれて公園をくるりと回って飛んでいきます。出席者の多くにとって最も意味があり強烈な印象があるのは、8時１５分の黙祷です。それは６６年前に原子爆弾が炸裂した時間です。多くの人々の目が上空を見つめます。まるで、皆の運命を決定付けた恐ろしい核兵器を搭載した B-29 を、見据えるかのように。式典に続き、WFC の多くは新しくできたバーバラ・レイノルズ碑の前に集まり、WFC クワイァを中心に短い合唱をしました。

その日のもう1つの重要な活動は、被爆者である西田吾郎さんのお話を聞くことでした。午前中に WFC におよそ５０人が集いました。この行事は長年ずっと引き継がれてきたものです。立命館大学やアメリカン大学の学生、WFC 会員、広島市民など多くの方々が彼の話に耳を傾けました。特別ゲストに立命館大学教授藤岡淳氏もいらっしゃいました。この被爆体験談の継承は WFC の仕事の中でも非常に重要なものです。 吾郎さんありがとう。

その日の夕刻 WFC の人たちは平和公園に戻り、灯篭流しに参加しました。１つ１つの灯篭には手書きで世界平和のメッセージがかかれています。その日は皆にとって、とても思い出深いものになり、また核兵器の無いよりよい世界を作るために、たゆまぬ努力を続ける気持ちを新たにした日でした。

「NARPI平和研修会に参加して」

藤井　正一（WFC 理事）

（2011年 NARPI 平和構築サマートレーニング参加者）

私は 8 月 20 日から 29 日まで北東アジア平和構築研究所（NARPI）平和構築研修会に WFC 派遣の運営委員として、どんな運営をするのであろうかと深い関心をもって参加した。広島修道大学院生の山本健太郎君はソウルへ行って、申込みしたほど積極的でした。

NARPI(北東アジア地域平和構築研究所　本部　韓国ソウル市）が、日本を含む東北アジア地域において、草の根レベルで平和づくりに取り組む人材を育成するために、「紛争転換・修復的正義・トラウマ対処」等の技術を修得するために企画された平和教育プログラムです。

私は 8 月 20 日ソウルの研修会場（ソウル青少年ホステル）に到着すると、11カ国・地域から48人が受講し　講師、スタッフ、ボランティアを含めて約60人が参加して盛り上がっていた。

研修会内容は2週間で6講座が5日間単位で開催される。 受講者は選択して履修できます。第1週（16　日―20　日）は「紛争と平和」、「平和教育」、「修復的正義」の3講座が、第2週（24　日―28

日）は「平和についての歴史的文化的話」、「トラウマへの対処」、「紛争調停」の3講座が開かれました。今年オープンしたばかりの素敵な施設で朝9時から夕方5時半まで、合計 7 時間は、講師の講義だけでなく、グループワークもある工夫された内容なので、参加型学習で、受講生は興味深く受講していた。

参加者はさまざまな国・地域から来ているので、講座では共通言語は英語だった。英語を母語とする受講生はわずか2人にとどまり、全員が多かれ少なかれ、コミュニケーションの困難さを経験しながら、学習することとなった。手助けが必要な日本人、韓国人、中国人には言語サポートとして、英語がわかるスタッフが講義内容をメモして手渡して、講義内容の理解を手助けした。夕食後、特別講座や文化プログラムがあった。多文化をもつ受講者が寝食を共にしながら、日々の生活をするので、国際交流の場でもあり、友情が育つ場であった。

第1週と第2週の間（21 日—23 日）にはフィールド学習が行われた。貸切りバス 2 台でソウルを出発し、3 時間かけてナヌムの家（日本軍「慰安婦」歴史館）を訪問した。受講生の六割以上が女性だったこともあり、深い関心と同情を持った。

第2週の会場は 38 度線の非武装地帯（DMZ）近くに設けられた環境局管理の「平和と命のキャンプ」という研修施設でした。豊かな自然の中に建設されており、近くの道路を軍隊の車が往来し、ヘリコプターが空を周回するなど最前線として軍事的厳しさを感じる環境でもあった。

28 日の閉会式では、参加者同士で別れを惜しみ、相互の近況の交信を約束し、2012 年開催予定の広島の地で再会を誓っていた。

運営委員としての感想は次の通りです。

1） 草の根レベルの組織で11カ国・地域（韓国、日本、中国、台湾、香港、モンゴル、ロシア、フィリピン、インド、米国、カナダから48人が 2 週間、研修し、交流するプログラムは生産的であり、感動的です、

2）2 週間の充実した講座、交流プログラムと宿泊施設と食事の内容を考えると、参加費 1300 米ドルの価値があると思っている。

3）2012 年に広島開催を予定して、会場及び予算（円高が海外参加者に大きな障害）など幾つかの課題があるが、国際平和文化都市にふさわしい国際事業であると感じている。

（2011年 NARPI 平和構築サマートレーニング参加者ダンスを楽しむ）

2011 NARPI Summer Training

山本健太郎 （広島修道大学4年）

（NARPI 平和構築サマートレーニング“トリガー”セッション）

私は 8 月 14 日から 28 日の約 2 週間、NARPI (北東アジア地域平和構築研究所)が主催する Summer Training に参加しました。参加者は約 60 名で、13 カ国から参加していました。私がこのセッションに参加しようと思ったきっかけは、NARPI が北東アジアの人々の心を接合する平和構築トレーニングを通して、平和構築のための技術を学び、また参加者同士の意見やアイディアを共有し、それを将来自分の平和構築活動に活かしたいと思ったからでした。

授業は1週目と2週目で分かれており、またそれぞれ3つのコースがあって、参加者は自分の興味のある授業を選択することができました。私は“A Framework for Restorative Justice”と”Historical and Cultural Stories of Peace”の授業を受けました。“Restorative Justice(修復的正義)”のクラスでは、犯罪における被害者と加害者の意見やニーズを尊重し、また対話や集団での話し合いの場を設け、犯罪によって発生した影響をできる限り正しい状態にしようとするプロセスをまず理解することから始まりました。例えば犯罪の事例をもとに、被害者と加害者に分かれ、互いの感情や事件発生後の状況を報告したり、ディスカッションを行ったりしました。そして双方のニーズや声を聞くということは、犯罪においてのみでなく、地域社会や人と人との対立について相互理解して、解決策として非常に重要になり、平和構築において不可欠であることを学習しました。

また“Stories of Peace”のクラスでは、実際に戦争や紛争を経験した人々の体験談や話などを、後世に伝承するのに、何が重要であるかを学習しました。これは広島の被爆者の方々の体験談と同じだと言えるでしょう。被爆者の数がだんだんと少なくなっている現在のこの状況で、私たち戦争を知らない世代が、戦争を知らない若い世代に継承するにあたり、どのようにすれば被爆者と同じように語り継ぎ、悲惨な戦争を2度と繰り返さない平和な世の中にできるかをディスカッションを通して学びました。その方法の一つとして、絵やモニュメントなどのアートワークが挙げられます。なぜならアートワークは年代を通じて理解しやすく、時には言葉よりも強いメッセージが込められ、インパクトを人々に与え、記憶に残りやすいためです。たとえ戦争を経験したことがない私たちの世代でも、アートワークによって強いメッセージを共有し、継承出来る可能性があることを学習することができました。

1週目と2週目のクラスの間に、3 日間の Field Trip があり、日本軍慰安婦歴史館、第4トンネル、DMZ を訪れました。日本軍慰安婦歴史館では、実際に被害女性に会って話を伺いました。日本では慰安婦問題は大きく取り上げられず、その事実があったことすら知らない人が多いのが今の日本の現実です。また彼女たちの日本政府に対しての願いや声は、無情にも無視され続けています。「今の時代に生きるあなた達には罪や責任はない、しかし、今日ここで知った事実や私たちの思いを、訪問されたあなた達があなたの周りの人や、次の世代に伝え続けなければならない義務がある。そしてあなた自身がこの事実を深く考え、再びこの悲惨な出来事が起きないよう行動していかなければならない。 だから、またいつでも遊びにおいで。」一人の被害女性が私に言ったこの言葉は、大変心に残りました。広島人として、日本人として、地球市民として、今後どのような行

動を私たちがとらなければならないか、感じました。

様々な国や地域から訪れた人々、異なった生活環境やキャリアを積んできた人と意見やアイディアを共有することで、自分自身に新たな視野や価値観を見出し、今後自分が何をしなければならないか、自分のこれからの平和構築活動を実践するのに役立てることができました。授業も少人数制で、日本の授業とは異なり、参加者同士と Facilitator(指導教師)との意見交換が授業の主であったため、参加者の発言が常に求められた。また分からない箇所や理解できなかった箇所を、そのまま放っておかず、その都度質問をし、理解力を深める努力をすることが必要であったため、英語に限らず、多くの経験を通して成長することができました。また自分の下手な英語でも、誠意を持ってなんとか伝えるように努力することで、相手側も理解してくれるので、大学で常に心がけている投げやりにせず、最後までやり抜きとおす精神が改めて大切であると感じました。さらにセッションを通して、多くの友人を作ることができ、共にかけがえのない経験をすることが出来、現在でも連絡を絶えず交わし、互いに励ましあっています。

Summer Training を通して、私は平和活動や平和学習に対してもっと積極的になるべきだと感じました。平和は大事、平和な世の中にすることは必要であると、誰でも口で言うのは簡単ですが、では、「そのために何をしなければならないか」、「実際今まで自分は何をやってきたのか」尋ねられると、返答に困る自分がいました。しかし、セッションを終えた今、私はこのセッションで学んだ以下の2つのことを生かしたいと思いました。

1つ目は、平和活動に対して具体的な行動をとることです。抽象的にただ平和は大事であると思うのではなく、世界平和創設において、自分に何ができるのかを具体的に示す必要があると感じました。まだまだ自分には可能性やチャンスが満ち溢れており、たとえ微々たるものであっても、日々の生活の中で平和を思い、学習し、行動していこうと心に深く決意しました。

2つ目は現代社会において、これからの時代は市民ひとりひとりの声や行動が、大きな力になり、それがより良い時代を作ることにつながるということです。今までの生活において、私たちはもしかしたら政府に任せすぎた部分があり、頼りすぎていたのかもしれません。市民の声、市民の行動がいかに大きな力を持っているか、気づかなければならない時代がもう完全に到来しております。広島人として、日本人として、そして地球市民として、これからも日々好奇心と疑問を持って経験を重ねていき、学習し、そして行動していきたいと感じました。このセッションは自分の大学生活の出来事トップ5に入るくらい、意義深いものでした。この機会を与えてくださった皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

（2011年 NARPI 平和構築サマートレーニング参加者達）

elin　o'Hara slavick's　Art Exhibition　「被爆その後」・二重照射

ジョアン・シムズ （WFC 館長）

（旧日銀広島支店での展示準備）

ヒロシマの語り伝えるものは、爆風と放射線照射とその後の苦難です。芸術家のエリン・オハラ・スラビックさんは、彼女の新しい写真や日光写真による作品群を旧日銀広島支店で展示するために、センターに滞在しました。9月 17 日から 10 月5日まで、その建物の3階で彼女の展示は行われました。彼女は展示に先立って(前夜祭で)講演も行い、平和を求める熱意や、芸術には、世界の重要問題に対しての関心や感情や行動を湧きあがらせる力があるという信念を述べました。確かに、彼女の After Aftermath「被爆その後」というタイトルの展示物は、その信念を美しく、簡潔にかつ力強く実証していました。

エリンの作品は、原爆資料館から借りた被爆物体を感光紙に乗せ日光に当てて作られました。感光した後は現像され、念入りに乾燥されました。すると、真っ青な背景にその物体が白い影となって浮かび上がってきます。展示品の中には、広島の歴史的な遺物を拓本にとって大きな白黒写真にしたものもありました。濃い青地にぼんやりと浮かぶ白い影と、白地に黒の拓本とが、絶妙の対比を見せていました。エリンの広島来訪を歓迎して広島平和文化センターのスティーブ・リーパー理事長が開会式に参加し、山根美智子さんが、エリンの挨拶を約35人の参加者に通訳しました。

テープ、釘、梯子、ロープ、金槌等を用いて、WFCのジョアンとラリー・シムズ館長と山根美智子・宮本キリコ・山本健太郎等の会員たちが展示設営を手伝いました。また、展示終了後は同じメンバーが、それを取り外し箱詰めして、米国ノースキャロライナ州のエリンのもとへ返送しました。エリンの思いのこもった作品を広島市民に展示するためのお手伝いができたことを喜んでいます。

エリンの展示のタイトル After Aftermath「被爆その後」は、かつて原爆にさらされて、また再び感光紙の上で太陽光を照射された物体をとてもよく表現してします。それは二重照射の経験だったのです。

(開会式:右、エリン・オハラ・スラビック　中央、スティーブ・リーパー)

ワールド・フレンドシップ・センターでのインターンシップ

広島修道大学　人文学部英語英文学科
水戸ひとみ

（水戸ひとみ、ラリー・シムズ、ジョアン・シムズ）

私のインターンシップ期間が始まったのは、９月１日でした。９月１４日までの２週間、私はワールド・フレンドシップ・センターで働かせていただきました。何もかもが思い通りに運ぶことはありませんでした。実際、私は修道大学の国際交流センターでのインターンシップを希望していたのです。それに今年のインターンシップの学生は私１人だけでした。それでも、これも何かの縁だと思い、働くことを決めました。初めは、館長の話を聞き取るだけで精一杯でした。

私の仕事は、洗い物、掃除、洗濯物干し、宿泊客用の部屋の準備、宿泊客の朝食の準備などでした。毎日午前と午後の英会話教室に参加させていただきました。仕事ではありませんが、ゲストとしてワールド・フレンドシップ・センターに宿泊しました。また、理事会に出席したこともありました。授業が始まるまでの時間を使って、「THE PHOENIX AND THE DOVE」を読み、私は館長のお２人からワールド・フレンドシップ・センターとバーバラ・レイノルズについて教わりました。ワールド・フレンドシップ・センターが、海外から広島に来る人たちのための宿泊施設であり、英会話教室もやっているということは事前準備で教えてもらっていたのですが、本来は平和のための活動がメインであると知ったのは、インターンシップが始まってからでした。申し訳ないくらいに勉強不足でした。館長たちがボランティアということも知りませんでした。こういった人たちが世界にいる限

り、ワールド・フレンドシップ・センターの活動は続いていくと思います。短い間ではありましたが、館長ご夫妻、WFC の皆さん、大変お世話になりました。貴重な体験をありがとうございました。

「平和の鐘」を鳴らそう

ラリー・シムズ （WFC 館長）

（8月15日の追悼会のスピーチの準備をするラリー・シムズ）

1945 年 8 月 15 日は平和を祈念する日と定められました。あの日、悲惨な太平洋戦争が終結しました。2011 年 8 月 15 日、広島平和記念公園では広島ユネスコ協会のメンバーや招待客、平和公園を訪れた人たちや市民などが集い、8 月 15 日を追悼しました。同じような追悼会が東京、長崎、そして世界中の多くの都市でも行われました。

大勢の人々が集まる 8 月6日の原爆慰霊祭と比べるとこの日はささやかな集まりの追悼会でした。明日の平和を願い、参加者は園内の「平和の鐘」の前に集いました。この鐘は 1964 年に建立され、周りの池や屋根などとともに、とても意味深く、意義のあるシンボルとなっています。鐘の表面には、国境線のない地球大陸（世界地図）が浮き彫りにされています。このデザインから、平和によって世界はひとつになるという製作者や広島の熱い願いが伝わってきます。撞木（鐘つき棒）がロープで支えられていて、それで撞座の原子力のマークを打ちます。この原子力マークを打つことには、いつの日か世界中の核兵器がすべてなくなって欲しいという願いが込められています。撞木

の反対側には、鐘をつく人の本心を映し出す鏡がついています。ドーム型の屋根は、宇宙を表現しています。鐘は蓮池の中央にあり、誰でも台に乗るとどこからでも近づけ、平和を願い、鐘をつくことができます。蓮は 2000 年前の種を発芽させ育てたものです。8 月に咲く蓮の花は、原爆が投下された 1945 年 8 月 6 日、被爆した人たちが火傷を和らげるために、その葉で傷を覆ったことを私たちに思いださせてくれます。

（撞座にある原子力マークを打つ撞木）

2011 年 8 月 15 日、「平和の鐘」」の前で、タイやユネスコクラブメンバーの高校や、ワールド・フレンドシップ・センター（WFC）などのメッセージが読まれました。WFC のラリー・シムズ館長は、「私たちが世界平和という共通の目的であるこの追悼会に参加でき嬉しく思います」と述べました。「私たちは広島市や世界各地の多くの他の組織と一緒に、争いのない世界を目指して共に活動し、世界平和への道を歩んでいきます。」

正午 12 時、参加者全員で戦没者と原爆で亡くなられた方々に黙祷をささげました。その後広島ユネスコ会長、外国からの招待客、招待された高校生と共に、平和の鐘を 3 回つきました。

その鐘の音は公園中に響きわたり、戦争のない、核のない、争いのない世界を祈る声が響きわたるようでした。

ぺあせろべ

渡辺朝香 （WFC 理事）

2 日間あいにくの雨でしたが、様々な出会いに恵まれました。メインステージで私達は、宮沢賢治の世界観(星めぐりの歌)、沖縄の生命への賛歌(天の子守唄・童神)、ヒロシマのスピリットを問いかけていく合唱曲(世界の命=広島の心)を歌いました。

宮沢賢治作詞による“雨ニモマケズ”英語訳をWFC館長JoAnnが、日本語を新原さんが朗読されました。これらを未来へ繋いでいきたいと思います。演奏の後にぺあせろべ実行委員長の山本誠さんが、WFCのブースのほうにお見えになり、お褒めの言葉をいただきました。ひとりひとりの“愛と平和”のお心遣いと発信に感謝のひとときでした。

小林さんの手話での表現、感謝でした。千代子さんの折バラアート、とても素敵でした。私は沖縄のドーナツ、サーターアンダギーと祝島のホットびわ茶を販売しました。増田さん、祝島の物産と脱原発、原発に関わる労働者への署名、被災者の皆様への応援お疲れ様でした。脱原発は、未来への私達の責任です。

29 日だけの参加でしたが、「世界中の爆弾を花火にかえて」の制作者の松本涼子さんの似顔絵も好評でした。機会があれば皆様も今の自分の記念に一枚どうぞ！笑顔になれます。

WFC館長ご夫妻、木戸マサ子さん、西田吾郎さん、山根美智子さん、車地かほりさん、平末洋子さん、池田美穂さん、山縣八寿子さん、森河伸子さん、小倉千代子さんのご尽力に感謝でした。

マイク・スターンのコンサートをワールド・フレンドシップ・センターで開催

ジョアン・シムズ （WFC 館長）

２００９年に、WFCのPAXチームは、広島の話と被爆者の物語を伝えに米国へ旅をしました。PAXチームはオレゴン州ポートランドに到着し、現館長のジョアンとラリー・シムズ宅に滞在しました。オレゴン滞在中に、PAXチームは公共テレビのインタビュー番組「率直に言えば」に出演。一方で、リンフィールド大学のいくつかのクラスで話をし、また、教会の集会でも物語を伝えました。訪問のハイライトは、オレゴン州マックミンヴィルのファーストバプティスト教会での平和コンサートです。コンサートには、PAXメンバーの山根美智子さんと渡辺朝香さんも出演しました。朝香さんはWFC合唱団のディレクターで、素晴らしいソプラノの声で美しい歌を何曲か歌い、美智子さんは日本の有名な平和の詩を何編か朗読しました。平和コンサートには、シンガー・ソングライターで平和活動家のマイク・スターンが出演しました。

マイク・スターンは、米国の西海岸沿いでよく知られています。彼は定期的に「歌と物語の祭典」や「宗教と平和の会議」、学校、教会、そしてまた「人道的住宅建設援助団体」「平和的紛争解決を目指す団体」「社会的責任を果たすための医師団」、シアトルでのイベント「広島から希望へ」や、

「北米バプティスト平和団体」などで演奏しています。マイクは平和について情熱的であり、ブレズレン教会のボランティアサービスの働き手としても活動しました。ベトナム戦争中は、良心的兵役拒否者でもありました。

ピューリッツア賞受賞コラムニストのデビッド・ホージーは、マイクのバラード「永久に戦いを止めよう」や音楽を、「美しい旋律で、感動的…平和と正義が私たちの最高の道徳的価値観だということを思い出させてくれる」と表現しています。マイク・スターンは、ギターやバンジョー、ベース、バイオリン、ハーモニカやウクレレを弾きながら歌います。彼はしばしば、皆で歌おうと、聴衆に声をかけます。

オレゴンでの平和コンサート中に、朝香さんはマイクの音楽に感動して、一つのCDを買いました。その中の一曲「Last Night I Had the Strangest Dream」は、今ではワールド・フレンドシップ合唱団の愛唱曲です。マイクと朝香さんはお互いの才能と、平和コンサートで共有した平和の音楽に共に感動しました。朝香さんはその時、「私の夢は、広島でマイクとジョイント・コンサートを開くこと」だと言っていましたが、今回、その夢が叶いました！マイク・スターンと彼の奥さんのキャロルは、２０１２年４月の第２週目に広島に到着します。只今、大規模なコンサートと、桜の下でのいくつかの小さな野外コンサートを計画中です。この春WFCでは、広島での美しい音楽と桜の両方をお楽しみいただけます。ＷＦＣは、皆様をこれらのコンサートにご招待致します。また、www.mikesongs.net で、マイク・スターンの音楽のサンプルをお聞きいただけます。

（Mike Songs のウェブサイト　http://www.mikesongs.net/strangest.html ）

（コンサートで歌うマイク・スターン）

（マイク・スターンの CD アルバムのカバー）

ピースキャンプ

ジム・ロナルド （広島修道大学教授）

今年のユース・ピースキャンプが 8 月 7 日から 13 日まで韓国で開催されました。このキャンプは韓国の KAC（韓国アナバプティスト・センター）が創始し、メノナイト中央委員会が支援しています。KAC は当初から中国のピース・イン・チャイナ（ワン・インさんとその友達）と広島のワールド・フレンドシップ・センターと共に運営してきました。第１回目のピースキャンプは四川省の東部の山間地で、２回目の今年は南北朝鮮の国境からそれほど遠くない東海岸近くの韓国で開催しました。来年は広島での開催を予定しています。

中国、日本、韓国の 12 歳から 18 歳までの若者たちが参加するピースキャンプは、バーバラ・レイノルズの平和構築のビジョンにしたがって若者たちが集まり、友情を育て、固定観念や疑念を破るための活動をしています。この 3 カ国の若者たちにとっては、先世紀の戦争の後、表面だけの和解があったけれども、このキャンプで学習することは特に重要な事です。学校の歴史教育やメデイアにより中国には苦い感情が、いまだに韓国でもある程度残っています。一方、日本では若者は国の名においてなされた残虐行為についてはあまり学んでいませんし、より貧しい隣国の人々を見下すこともたびたびあります。このピースキャンプを通して彼らが皆戦争の犠牲者であり、許す事を学び、キャンプの後で友達や家族間で積極的に平和構築を学びます。ピースキャンプが何を達成するか、何のためにあるのかについての一例として昨年中国から参加したビッキイのメールの一部をここに紹介します。

「最近中国と日本の間である争いがあったことを知っています。日本の大使館の前で人々にデモをさせる事は誤解と憎しみが起こるので、このような時に平和構築をすることは非常に困難な事です。私は自分の目でその場面を見たのです。もし私が 2 年前にピースキャンプに参加していなかったら、私もこれらの人々の中にいたかもしれません。だから私はピースキャンプに参加した事がどれほど幸いしたかそしてピースキャンプをもっと促進すべきだと思いました。私の兄弟は以前中国に侵攻してきた国の人々を嫌う過激な人です。私は新しい考え方で全世界を見るよう彼を説得しましたが私のいう事を聞き入れませんでした。彼をピースキャンプに参加させられなくてとても残念でした。」

今年は WFC とアメリカ委員会はピースキャンプに経済援助をして長崎から松尾彩花さん、藤本千尋さん、広島から横田果穂さん、坂田美優さんの 4 人を参加させることが出来ました。長期間平和活動をしている大学生で、広島の朽網真理亜さんと長崎の小野亜耶さんはカウンセラーとしてキャンプに参加しました。最後に、パク・ユンソさんと KAC のメンバー、そしてこのピースキャンプの参加者を後援してくださった個人及び団体に厚くお礼を申し上げます。

ピースキャンプに参加して

朽網　真理亜
広島修道大学　人文学部英語英文学科4年

私は今回の韓国でのピースキャンプにカウンセラーとして参加させていただきました。大学1年生のころから、広島の原爆のことなど平和学習に興味のあった私に、大学のゼミの先生であるジム先生からお話をいただき、参加することになりました。

このキャンプで私の中で特に印象に残っていることは、簡単なアクティビティを通して平和を考えたことでした。その内容は、キャンプ参加者およそ40人に3つの異なった課題のうちのどれかが与えられ、それを誰にも見せずに行うというものでした。1つは部屋の中にあるイスをすべてひっくり返すこと、もう1つはイスを円状に並べること、そしてもう1つはイスを部屋の角に集めることでした。全員が誰とも話さず、ただただ課題を成功させようとしました。イスと逆さにする人、それを戻す人。イスを円状に並べる人、イスを部屋の角に移動させる人・・・。しかしそれでは20分たっても、どの課題も達成することはできませんでした。今度は全員話すことを許され、かつ3つの課題すべてを達成する方法を考えるように言われました。すると、先ほどまったくばらばらな行動をとっていた私たちでしたが、「部屋の角にイスを逆さにして円状に並べる」という課題を考え出し、1つの目的を全員で達成しようとするようになりました。このアクティビティで、世界でもし異なった課題を持つ国があり、それぞれが自分達の課題のことのみ考え、他国のことを考えないとどのようなことになるのかということを縮図的にみることができました。それと同時に、皆が他者、つまり他国のことも考え行動すれば、いずれ全ての課題を解決していけるようになるのだとわかりました。

また、教室外のアクティビティでは、国籍のパートナーと共にキャンプ場内にある約20箇所のポイントを巡り、早く戻ったチームが勝者となるゲームをしました。私は15歳の韓国人の女の子とペアになりました。英語でコミュニケーションをとることよりも、お互いがどう考えているかにより気を配っていました。中心から遠いポイントを目指したいか、なかなか見つからないポイントを探すことを続けたいかなどなど・・・。昼と夜の2回にわけて、このゲームがありましたが、特に夜はあたりがよく見えず2人で手をつないでポイントを周りました。パートナーの子がとてもしっかりしていたので、彼女の通訳で地図に書いてある韓国語の意味も理解することができました。また、このゲームの後にやぶを通ってきり傷を負った私を、別の韓国の女子が保健室に連れて行ってくれたことがとても嬉しかったです。彼女はあまり思ったことを英語で言い表わせないようでしたが、その優しさは十分に伝わってきました。

キャンプの中でいろいろなゲーム、歌、アクティビティをしました。どれも目的があって行われましたが、私はその目的とはまた別の多くのことを学べたと思います。Peace Builder になるために必

要なことは、相手のことを考えることだとわかりました。来年からは社会人となりますが、もし可能であればまた来年も参加してみたいと思います。最後になりましたが、今回のキャンプの成功のために様々な方の援助をいただきました。本当にありがとうございました。

横田果穂
広島県五日市高校　3年　18歳

なぜこのPeace campに参加したかというと、Jim先生に紹介してもらったからです。そして、このPeace campに参加することを決めました。しかし、初めての経験だったので少し不安でしたが、韓国の人や中国の人と交流ができるという期待とワクワクした気持ちのほうが強かったです。そして、興奮のまま初日を迎えました。博多から韓国に行くのに船で行きました。韓国に行く途中で気分が悪くなってしまい、カウンセラーの方に良くしてもらって、とても助かりました。カウンセラーの方が私たちを無事に連れて行ってくれました。それから、韓国の人・中国の人たちとゲームをして自分の部屋に戻りました。部屋には8人いてみんな優しくて、とても過ごしやすかったです。

2日目は、チームに分かれて新聞紙を使ったゲームをして楽しんだ後に、チームで「平和とは何か？」ということを1人1人考えて意見を交換しあいました。この時に、英語ができない私にチームのみんながサポートしてくれてとても助かりました。この意見交換で人それぞれの平和について考えを聞いて勉強になりました。その後、オリエンテーションでは韓国の子と2人でした。2人だったのでとても中が良くなりました。韓国語を教えてもらったり、日本語を教えたりすごく楽しかったです。寝る前は一緒に過ごしている部屋のメンバーで韓国語、中国語、日本語を勉強し友情を深められました。

3日目のPEの時、英語の意味がわからなくて困っていたらチームの人がわかりやすく教えてくれたり、話しかけてくれたり楽しませてくれました。昼からはActivityで命綱をつけて高いところに登ったりしました。

4日目の一番印象に残っているのは、海に行ったことです。海に行ってみんなともっと仲良くなれました。夕食はBBQで韓国気分を味わいました。Culture nightは韓国、中国、日本で出し物をして各国の文化を味わったり個人で出し物をしました。日本は浴衣で参加して「上を向いて歩こう」を歌いました。私は真理亜さんとなわとびを披露してみんなにもチャレンジしてもらってとても楽しかったです。

5日目のPEはゲームでしたが、平和に関する内容でとても考えさせられるゲームをしました。このPeace campは楽しく学ぶ感じでいい勉強の仕方でした。それから川に行ってチームで一緒にRaftingをして一致団結しました。夜はCookingで各国の料理を作り食べました。日本はお好み焼きとちらし寿司をつくりました。韓国の子が美味しいといってくれてうれしかったです。

最後の日はソウルにいって観光でした。Gyeongbokgung Palaceやショッピングに行きました。そして韓国の歴史をたくさん教えてもらいました。最後の夜はみんなであつまって感想などをいいまし

た。私は英語が出来なかったけど、みんながサポートしてくれました。とても楽しかったです。Peace campを通して、まず多国籍の人々をお互い理解しあうことが平和への１番の道だと考えました。私たちが互いの文化や違いなどを認めあえば、戦争という文字はこの世界から消えると思います。このキャンプで学んだことを大学での勉強や自分の将来に活かしたいと思います。最後に貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

小野　亜耶
活水女子大学健康生活学部子ども学科 3 年　21 歳　（カウンセラーとして参加）

このピースキャンプに出会わせてくださったジム先生、プログラムを用意し、実行してくださったユンソさんをはじめ、見えないところで支えてくださったすべてのスタッフのみなさん、そして参加した子どもたちに、本当に感謝しています。私は当初、インジェのキャンプ場につくまで、不安や心配でいっぱいで、何度もジム先生に電話をしたりしていました。しかし、ピースキャンプは本当に素晴らしく常に笑顔や笑い声の絶えないものでした。

私はこのピースキャンプを通して、沢山のことを学びました。子どもにどの様にして平和を伝えるかだけでなく、どのようにして子どもたちに国際間での繋がりを作り上げていくか、そしてともに平和な世界を作っていくのかを考えてもらうのか。そのプログラムは、一つひとつの段階が小さく、子どもたちが想像したり考えたりしやすいように、沢山の例や資料などが用意してあり、子どもたちが平和の大切さやどのように身近な問題など解決し、そして周りとの関係や平和を築いていくのかなどが、理解しやすくなっていました。また、ただ難しいことを考えたりするのでなく、歌やゲーム、ダンス、クイズなど、様々なアクティビティが含まれていて、子どもたちは楽しそうに頭を使っていました。そして、子どもが飽きたりしないように、リフレッシュするためのアクティビティやエクササイズをどの様にプログラムの中に取り入れていくのか、そして普段関わることの少ない中高生との関わりが、とてもいい刺激となりました。

今日の日本では、兄弟姉妹を持たない子どもが増えてきています。また、昔と比べると子どもだけでなく大人も、隣近所や地域社会との関わりが少なくなってきています。つまり、人と人のコミュニケーションが減り、子どもたちも友だちや兄弟姉妹と遊ぶ時間が減ってきているということです。しかし一人ひとりの主張は増え、そのようなことから、この世界で沢山の人と住むことが難しく感じる人も増えてきました。日本に帰ってから、この問題とピースキャンプのことをずっと考えていました。私は子どもたちや家族になにができるのか、そしてなにをしていくべきなのか。将来、保育士を目指しているわたしにとって、ピースキャンプでのプログラム作りのことや、様々な年齢、英語のレベルの違う子どもたちと関わった経験は、大学での学びに繋ぐことのできるものでした。せっかく経

験させていただいた体験をもとに、これから残りの大学生活で、もっと学びを深めていきたいと思います。そして私は、友だち作りや友だちとともになにかをすること、そして命の大切さや面白さをつたえることのできる保育士になろうと思います。
今回参加できたことに、本当に感謝しています。そして来年も続けていけること、参加できることを、楽しみにしています。

（次のページにピースキャンプの写真を載せていますのでどうぞご覧ください。）

Microsoft
Home Magazine

Microsoft Home Magazine Template
Digital Image – Photo Collage